



佐藤 圭一
国士館大学 学長

さとう・けいいち氏

1955年生まれ
1984年 国士館大学大学院政治学研究科博士課程修了
国士館大学宗教研究所助手
1994年 国士館大学政経学部専任講師
2002年 国士館大学政経学部教授
2003年 国士館大学政経学部教授
2012年 国士館大学大学院政治学研究科長
2015年 国士館大学学長
宗教学会理事、比較憲法学会理事
「政治学博士」
専門：アメリカ政治史

100年の伝統と新しさが交差した日本人の心を育む国士館へ

国士館大学の成り立ちは、1917年に創立者である柴田徳次郎が麻布に私塾「国士館」を作ったのが最初です。日本近代化の祖となる人々の師、吉田松陰の考えに強く感銘を受けていた柴田は、日露戦争後、拝金主義に走る日本の行く末に危機感を抱きました。そこで、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を教育理念に、日本人が連綿と受け継いできた精神を復興し、「世のため人のために尽くす人材」即ち「国士」を養成する国士館を創立するに至ったのです。

防災・救急救命、公務員養成に強み

本学が今、一番力を入れているのは、四徳目を現代に継承した防災教育です。2011年に防災・救急救命総合研究所を設立し、新入生オリエンテーションの一環として、研究所主催の防災教育を行っています。なかでも「防災リーダー養成論実習」という科目では、地元町内会・日本赤十字社東京支部・世田谷警察署・世田谷消防署等の協力を得て防災訓練も行っています。

また、国士養成の理念から、公務員養成にも強みがあります。警察官就職者数は全国で2位、消防官就職者数と救急救命士国家試験の合格者数はともに全国1位の実績を誇ります*。

このように公務員志望学生が多いことから、今年4月より政経学部政治学科を政治行政学科に名称変更をし、「警察行政」や「消防行政入門」等、新たなカリキュラムを作りました。政治行政学科のAO入試受験者の多くは公務員志望なので、志を持ってきた学生には、何とんでもその夢を叶えてあげたいと思っています。

救急救命士につきましては、日本で初めて救急救命士の国家試験受験資格を得られる4年制大学として2000年、体育学部にスポーツ医科学科を設置しました。救急救命センターや東京消防庁等と連携し、病院内実習や、救急車4台を利用した救急車同乗実習のほか、海外実習なども行っています。

キャリア形成支援センターでも公務員採用試験対策講座、警察官・消防官採用試験対策講座等、合格するための様々な講座を用意しサポートを行っています。

受験生はこうした本学の強みを知っていて志願してきますし、保護者の方も、本当になれるのかを非常に気にされます。ただ、受験の時は希望していても、実際に入学してから、3年半いかにモチベーションを維持させるかが問題です。そのため、キャリア教育で入学前に出口をしっかり設定して、結果を出すまでのサポートを行っています。例えば政経学部では、1年次必修科目「フレッシュマンゼミナール」の時に外部から専門家を呼び、公務員講座でも現職の警察官や消防官を呼ぶなどして、給料や福利厚生の内容まで話して頂きます。特に警察官を目指す女子学生はこれらを気にするので、ゼミの女子OBとも話せる機会を作り、安心してやる気を出してもらうような工夫を常に行っています。

女子学生が牽引する新たなイメージ

本学に対するイメージは世代によってかなり違います。私が入学した昭和50年代は、質実剛健、武道や体育のイメージが強く、少し怖い感じもありました。しかし今では女子学生が全体の22～23%で、昔の国士館を知る年配の方から驚かれます。

実は、ここ10年くらい女子を増やそうと戦略的に学生募集を行ってきました。日本の将来を考えるうえで、女子への教育は非常に重要です。女性の警察官や消防官も随分増えていますが、社会は男女どちらかだけでは成立しません。男女がお互いの価値観を議論して、いかに女子の活躍の場が大切かを認識するのも、ひとつの教育だと思います。

本学に入学した女子学生はみんな、「入ってみてイメージが全然違う。楽しい」と言います。この女子学生の満足度の高さを高校生に直接伝えたくて、オープンキャンパスで「女子カフェ」を開催しています。女子カフェでは、スイーツを食べながら、希望学部の女子の先輩に、大学生活のこと、勉強や部活、将来のこと等を本音で相談できます。この気軽な感じが評判が良いようです。お母さんと娘さんで来ることが多く、お母さんの中には昔の国士館のイメージを引き続き持っている方もいるので、今の国士館をお伝えできる貴重な機会

になっています。

校舎の面でも工夫しています。世田谷キャンパスには塀がなく、創立100周年記念事業の一環で2008年に完成した34号館（梅ヶ丘校舎）は、地上10階、地下1階建てで、10階のスカイラウンジは東京スカイツリーや富士山も見える眺望で、土曜日の午後は地域住民がランチを取る姿も見られるようになりました。

さらに2013年に完成したメイプルセンチュリーホールは、地上5階、地下3階建てで、理工学部実習室、フィットネスジムや、温水プール等があり、全学生のほか公開講座で地域住民の方にも開放しています。地下1階にはヘアサロンとネイルサロンがあり、女子が利用しやすい雰囲気作りもしています。

日本人の価値観に基づいた教養教育

東日本大震災で列を乱さない日本人の姿に世界が驚きました。コンビニが自ら食料を配るなど、私欲を抑えて世のため人のために尽くす行動は、まさに日本人が連綿と受け継いできた精神で、国士館の四徳目に通じます。日本人は教養があるので広い心を持てています。教養がなければ自分のことしか考えられず、偏狭な人間は価値観の違う人間を理解することができません。本当のグローバル化とは、言語習得でなく、教養を身につけることなのです。

本学には482名の留学生が在籍しております。また、世界51機関の協定校もあります。学生には、様々な交流をし教養を身につけてほしいと願っています。

古いものと新しいものが交差するのが今の国士館です。古いイメージのまま国士館を誤解している方もまだいるでしょう。

決して武道や体育だけでない、日本人の軸を大切に7学部10大学院研究科をもつ総合大学で、防災教育や公務員養成の強みもあり、女子や留学生もたくさんいる、社会と世界に開かれた大学だということ。建物のハード面は随分整いましたので、今後はソフト面で、国士館のこの新しいイメージを発信していきたいというのが私の気持ちです。

*株式会社大学通信「大学探レランキングブック2016」